

アビガン錠 200mg

【この薬は？】

販売名	アビガン錠 200mg AVIGAN Tablets 200mg
一般名	ファビピラビル Favipiravir
含有量 (1錠中)	200mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、抗ウイルス剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、インフルエンザウイルスや重症熱性血小板減少症候群ウイルスの増殖を抑えることでインフルエンザや重症熱性血小板減少症候群ウイルス感染症の症状を緩和します。
- ・次の病気の人に処方されます。
 - 新型または再興型インフルエンザウイルス感染症（ただし、他の抗インフルエンザウイルス薬が無効または効果不十分なものに限り。）**
 - 重症熱性血小板減少症候群ウイルス感染症**
- ・新型または再興型インフルエンザウイルス感染症の場合、この薬は、他の抗インフルエンザウイルス薬が無効または効果不十分な新型または再興型インフルエンザウイルス感染症が発生し、本剤を使用すると国が判断した場合にのみ、患者さんへの投与が検討されます。
- ・この薬は、細菌感染症には効果がありません。
- ・この薬は、小児等に対する使用経験はありません。

- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して飲むのを中止したり、量を加減したりすると本来の効果が得られないことがあります。指示どおりに飲むことが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- この薬は動物において催奇形性（胎児に奇形が生じる可能性）が確認されているので、妊婦または妊娠している可能性がある女性は使用することはできません。患者さんやご家族の方は【この薬を使う前に、確認すべきことは？】および【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】に書かれていることに特に注意してください。
- 妊娠する可能性のある女性は、この薬の使用開始前に妊娠検査を行い、妊娠していないことを確認します。また、この薬を使用している間および使用を終了してから 10 日間以内に性交渉を行う場合は、パートナーと共に極めて有効な方法で必ず避妊してください。
この薬を使用している間に妊娠が疑われた場合は、ただちに使用を中止し、医師に連絡してください。
- この薬を使用する場合、患者さんまたはご家族の方は有効性や危険性（胎児への影響を含む）について十分理解できるまで説明を受け、同意してから使用が開始されます。
- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・妊婦または妊娠している可能性がある女性
 - ・過去にアピガン錠に含まれる成分で過敏症のあった人
- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。
 - ・痛風または過去に痛風になったことがある人および高尿酸血症のある人
 - ・肝臓に障害のある人
 - ・授乳中の人
- この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。
- 肝機能障害があらわれることがあるので、この薬の使用前に肝機能検査が行われます。
- 抗インフルエンザウイルス薬の服用の有無又は種類にかかわらず、インフルエンザにかかった時は、異常行動を発現した例が報告されています。
異常行動による転落等の万が一の事故を防止するために、患者さんまたはご家族の方は以下の点について理解できるまで十分に説明を受けてください。
 - ・異常行動があらわれるおそれがあります。また、転落等の事故に至るおそれのある重度の異常行動については、就学以降の小児・未成年者の男性で報告が多いこと、発熱から 2 日間以内に発現することが多いことが知られています。
 - ・自宅において療養を行う場合、少なくとも発熱から 2 日間、保護者の方は転落等の事故に対する防止対策を講じてください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。
通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

[新型または再興型インフルエンザウイルス感染症の場合]

	1日目	2日目から5日目
一回量	8錠	3錠
飲む回数	1日2回	1日2回

この薬は、インフルエンザ様症状があらわれてから速やかに使用が開始されます。

[重症熱性血小板減少症候群ウイルス感染症の場合]

	1日目	2日目から10日目
一回量	9錠	4錠
飲む回数	1日2回	1日2回

この薬は、重症熱性血小板減少症候群ウイルス感染症の症状があらわれてから速やかに使用が開始されます。

●どのように飲むか

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。

気がついた時に1回分をできるだけ早く飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は、1回とばして次の時間に1回分飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・妊婦または妊娠している可能性がある女性はこの薬を使用することはできません。
- ・この薬は動物において催奇形性が確認されているので、妊娠する可能性のある女性がこの薬を使用している間および使用を終了してから10日間以内に性交渉を行う場合は、パートナーと共に極めて有効な方法で必ず避妊してください。
- ・この薬を使用している間に妊娠が疑われた場合は、ただちに使用を中止し、医師に連絡してください。
- ・肝機能障害があらわれることがあるので、肝機能検査が行われます。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。





重大な副作用	主な自覚症状
異常行動 いじょうこうどう	異常行動、普段と違うとつぴな行動をとる、急に走り出す、徘徊する
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸、息苦しい
肺炎 はいえん	発熱、咳、痰、息切れ、息苦しい
劇症肝炎 げきしょうかんえん	急な意識の低下、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
中毒性表皮壊死融解症 (TEN) ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう(テン)	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群 (スティーブンス・ジョンソン症候群) ひふねんまくがんしょうこうぐん(スティーブンス・ジョンソンしょうこうぐん)	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	尿量が減る、むくみ、体がだるい
白血球減少 はっけつきゅうげんしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
好中球減少 こうちゅうきゅうげんしょう	発熱、寒気、喉の痛み
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、唾液、痰に血が混じる、血を吐く、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい
痙攣 けいれん	顔や手足の筋肉がびくつく、一時的にボーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える

重大な副作用	主な自覚症状
精神神経症状（意識障害、 譫妄、幻覚、妄想等） せいしんしんけいしょうじょう（いしき しょうがい、せんもう、げんかく、もうそ うとう）	幻覚、妄想、興奮、抑うつ、意識の低下、意識の 消失、軽度の意識混濁、興奮状態、実際には存在 しないものを存在するかのようを感じる、根拠が 無いのに、あり得ないことを考えてしまう、論理 的な説得を受け入れようとしな
出血性大腸炎 しゅっけつせいだいちょうえん	激しい腹痛、血が混ざった下痢、発熱、ふらつき、 息切れ

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、ふらつき、発熱、体がかゆくなる、急激に体重 が増える、疲れやすい、体がだるい、力が入らない、食欲不 振、むくみ、突然の高熱、寒気、出血が止まりにくい、顔や 手足の筋肉がびくつく
頭部	めまい、意識の消失、急な意識の低下、一時的にボーっとす る、意識の低下、幻覚、妄想、興奮、抑うつ、軽度の意識混 濁、興奮状態、実際には存在しないものを存在するかのよう を感じる、根拠が無いのに、あり得ないことを考えてしまう、 論理的な説得を受け入れようとしな
顔面	顔面蒼白、鼻血
眼	白目が黄色くなる、目の充血やただれ
口や喉	喉のかゆみ、咳、痰、血を吐く、吐き気、唇や口内のただれ、 喉の痛み、唾液、痰に血が混じる、歯ぐきからの出血
胸部	動悸、息苦しい、息切れ
腹部	お腹が張る、激しい腹痛
手・足	手足が冷たくなる、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹、皮膚が黄色くなる、皮膚が広い範 囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、粘膜のただれ、 円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったもの が多発する、あおあざができる
便	便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）、血が混ざっ た下痢
尿	尿の色が濃くなる、尿量が減る
その他	異常行動、普段と違うとっぴな行動をとる、急に走り出す、 徘徊する

【この薬の形は？】

PTP シート			
形状	円形の錠剤		
	表	裏	側面
			
直径	8.7 mm		
厚さ	4.3 mm		
重さ	263mg		
色	淡黄色		

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	ファビピラビル
添加剤	ポビドン、軽質無水ケイ酸、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、クロスポビドン、フマル酸ステアリルナトリウム、ヒプロメロース、酸化チタン、タルク、黄色三二酸化鉄

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・家族や他の人に譲ったり、共有したりしないでください。
- ・万が一、薬が残ってしまった場合、残った薬は保管せず、医療機関にすべて返却してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。
 製造販売会社：富士フイルム富山化学株式会社 (<https://www.fujifilm.com/fftc/>)
 製品情報センター
 電話番号：0120-502-620
 受付時間：9：00～17：00
 （土曜・日曜・祝日・当社休業日を除く）